

教科	数学	科目	数学Ⅰ	学年	第1学年	系列 コース	共通
単位数	3 単位	教科書	高等学校 数学Ⅰ(数研出版)				
副教材	問題集『4プロセス 数学Ⅰ+A』数研出版 『4プロセス数学Ⅰ 完成ノート』数研出版						

1. 学習の到達目標

(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
(3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 評価の観点

①知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。

3. 学習の計画

学期	月	週No.	学習項目(単元)	学習内容
1 学 期	4月	1	第1章 第1節 整式	式を、目的に応じて多面的に捉えたり、適切に変形したりする力を培う。中学校までに取り扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深め、無理数の四則計算ができるようにする。不等式の解の意味や性質について理解するとともに、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。
		2		
		3		
		4		
	5月	5	第2節 実数	
		6	第3節 方程式と不等式	
		7	第2章 集合と命題	
		8	第3章 2次関数	
	6月	9	第1節 2次関数とグラフ	
		10	第2節 2次方程式と2次不等式	
		11		
		12		
		13		
		14		
		15		
		16		
7月	16			
2 学 期	8月	17	第4章 図形と計量	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。 図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力などを培う。 データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力などを養う。
		18		
	9月	19	第1節 三角比	
		20		
		21	第2節 図形への応用	
		22		
	10月	23	第5章 データの分析	
		24		
		25		
		26		
	11月	27		
		28		
		29		
		30		
12月	31			
	32			
	33			
	34			
3 学 期	1月	35		
		36		
		37		
	2月	38		
		39		
		40		
		41		
	3月	42		
		43		
		44		
		45		

4. 評価の方法

総合的に定期考査の得点に加えて、課題学習、授業態度、小テスト等日々の学習活動について、各評価の観点（①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度）ごとに評価する。学年末の成績は、各学期の成績をもとに算出する。